

2021 年 7 月 16 日

FSB 市中協議文書「Targets for Addressing the Four Challenges of Cross-Border Payments」に対する意見

一般社団法人全国銀行協会

全国銀行協会として、FSB から 2021 年 5 月 31 日に公表された市中協議文書「Targets for Addressing the Four Challenges of Cross-Border Payments」に対して意見を述べる機会を与えられたことに感謝の意を表したい。

本件が検討されるに当たり、我々のコメントが FSB におけるさらなる作業の助けとなることを期待する。

以 上

FSB 「Targets for Addressing the Four Challenges of Cross-Border Payments」 《consultation questions》への意見

| consultation questions | 意見 |
|---|---|
| <p>1. What are your comments on the key design features applied in designing the targets (section 1)? Are there any design features that you consider are missing?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 4つの課題（コスト・スピード・アクセス・透明性）だけでなく、「安定した決済機能の持続的な提供」は大前提の課題として掲げるべきではないか。特にコルレス銀行の減少（市中協議文書 p9）は問題と認識しており、今回の取り組みによりさらに拍車がかかることがないようバランスの取れた議論をお願いしたい。 ✓ 具体的な問題意識やそれに基づく目標の優先順位はあるべき。例えば国連の SDG は「移住労働者による送金コスト」を対象としているが、これにスコープを絞るということも考えられる。 ✓ ロードマップと目標との関係性を明確にすべきではないか。目標の達成は世界規模の協働とロードマップの実行によらなければ困難なのは明らか。 ✓ クロスボーダー送金において、スピード、コスト、透明性については従来から要改善事項だと認識している。 |
| <p>2. Do you agree with the market segments as described? Are they sufficiently clear? Do they reflect the diversity of cross-border payments markets, while providing a high-level common vision for addressing the four roadmap challenges?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ マーケットセグメントは、クロスボーダー送金の多様性は反映しており、ハイレベルな共通ビジョンを提供するものだと考えるがレミッタンスとリテールペイメントの区別が明確でないように思われる。 ✓ ホールセールとリテールの区別は一見明確だが（但しノンバンクは定義が必要）、国境をまたぐ送金の仕組み上は表裏の関係にあるためリテールの目標がコルレス銀行の減少に繋がらないか注意が必要と考える。 ✓ 提案されたリテールセグメントは大企業、中小企業、公共セクター、サービスプロバイダー、および消費者を含んでいる。一方金融機関は顧客のタイプによりオペレーションのコストが異なることから、全てを単一のセグメントとし、単一の目標を適用してしまうことにより、特定セグメントへのサービス提供の収益性・継続性が損なわれるのではないか。 ✓ 例えば、リテールセグメントについては、少なくとも、事業法人・公共セクターと消費者に分ける必要があると考える。 ✓ サービスプロバイダーやそのビジネスモデルの多様性についても考慮が必要と考える。ハイレベルのビジョンとして過度に単純化された目標によって、それぞれのサービスやモデルを不公正かつ不適切に評価されることがないか、十分な検討が必要。 |
| <p>3. Do you have any comments on the target metrics proposed?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 計測する対象を明らかにして頂きたい。具体的には、国又は各事業者単位なのか、海外拠点での取引はどのように取り扱うのか。 ✓ 各目標そのものの定義、発射台の定義、モニタリングの方法、データ提供者等を明確化して頂きたい。計測方法の適切性については、モニタリングを行う際のルールを明確化無しに目標を評価することは難しい。ルールの明確化により、全ての事業者が目標を評価することが可能になると考える。 ✓ 目標をどう実現するかの記載がない点は違和感がある。スピードやコストは、他の関連する Building Block により環境が改善されることを条件とすべき。 ✓ 目標のモニタリングのために市場参加者に新たなコストがかかるようなことは回避すべき。特に、取扱量がそれほど多くない金融機関においては、相応のコストが必要になることが想定される。 ✓ 目標達成を確実にするために、官民の参加者がビジョンとロードマップに対してコンセンサスを共有すべき。 ✓ コスト目標について：金額ベースのコスト目標が示されているが、送金サービスの提供には金額の多寡に関わらず発生するコストもあるので、送金額が少額になるほど、目標の達成が困難になると思われる。デジタルノバージョンとグローバル化の進展に伴い、少額送金のニーズは拡大傾向にあると思われる。コスト目標の指標については更なる検討が必要ではないか。 ✓ その他の目標について：定量目標の項目、定義を具体化する必要があることに加え、AML/CFT 対策を含む規制・監督の調和といった、コンプライアンスコストの低減に繋がる具体的な道筋を示すことが重要。 |
| <p>4. Do you agree with the proposal in the definition of the market segments to separate remittance payments from other types of cross-border person-to-person (P2P) payments because of the greater challenges that remittances in some country corridors face? If so, can you suggest data sources that can distinguish between the two types?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ レミッタンスを切り出して目標設定を行う意図は理解するものの、現状、多くの金融機関では個人送金とレミッタンスを切り分けていないと思われる。 ✓ レミッタンスを計測する為に、まずはレミッタンスセグメントの定義を明確化して頂きたいが、それにより、各金融機関がレミッタンスを計測するためのシステム開発等の対応が生じる可能性がある。 ✓ P6 の Payment types で示されている「～to family members/friends abroad」というデータ提供はできない。「一定金額以下の P2P 送金」であれば提供可能と考えられる |
| <p>5. Are the proposed numerical targets suitable? Are they objective and measurable, so that accountability can be ensured by monitoring progress against them over time?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ モニタリングを行う際のルールの明確化がされなければ、数値目標が適切かどうか判断できない。 ✓ 測定可能かどうかは、今後の定義の詳細化次第と考えるが、例えば、SWIFT を用いたサービスは gpi などにより測定できるケースもあるが、PSP サービスや地場決済などすべてをモニタリングするのは難しいのではないかと考える。また、手数料項目等、それぞれの業態のビジネスモデルによる不公平を避け、実質的に同じ定義のデータを提供するようにすべき。 ✓ 測定手法の検討に際しては、計測に必要な追加的なりソースへの配慮が必要と考える。これが送金サービス提供のコスト上昇要因となったり、中小サービスプロバイダーの撤退を促したりすることで、市場の寡占化やコルレスネットワークの更なる縮減を引き起こすことは回避する必要がある。 ✓ 多くの海外送金は米ドルでカバー送金が行われており、カバー送金の決済は米国で行われている。送金先がヨーロッパであっても、アフリカであっても、米ドルでカバー送金が行われる場合、スイフト電文の送信先は米国になる。したがって、スイフト電文の送信先を確認しても、カバー送金の送信先だけしか把握できず、最終的な送信先の正確な把握には、SWIFT 電文の制約上、受取人の Name&Address のナラティブ（ベタ打ち）フィールドから、住所の国情報を目で見てピックアップするといったマニュアル作業が必要になるため、ミスが発生しやすい。 |

| consultation questions | 意見 |
|--|---|
| <p>6. What are your views on the cost target for the retail market segment? Does it reflect an appropriate level of ambition to improve on current costs while taking into consideration the variety of payment types within the segment? Should reference transaction amounts be set for the target (in the same way as \$200 has been set for the current UN Sustainable Development Group targets for remittances) and, if so, what amount would you suggest?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 提案されたリテールセグメントは大企業、中小企業、公共セクター、サービスプロバイダーおよび消費者を含んでいる。一方金融機関は顧客のタイプによりオペレーションのコストが異なることから、全てに単一の目標を適用してしまうことにより、特定セグメントへのサービス提供の収益性・継続性が損なわれるのではないかと。 ✓ 例えば、サービスプロバイダーについて、プロバイダーによって中心的に取扱う金額帯が異なることを踏まえて、プロバイダー毎に異なる基準取引金額を設定してはどうか。 ✓ 仮にコスト目標をパーセンテージで定めるのであれば、基準取引額は設定したほうがよいのではないかと。金額の水準はわからないが、リテールのボリュームゾーンや顧客のタイプを踏まえたうえで検討されるべきである。 ✓ Foreign Exchange margin は、国際決済銀行（BIS）公表の「FX Global Code」に基づき、通貨毎に流動性等を参考に各行で設定している。次の理由から、送金コストを検討される際は Foreign Exchange margin を除いたコストをベースとして頂きたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・公表相場を開示している金融機関の多くは、日中の為替相場変動リスクを抱えるものの、顧客の利便性を踏まえ、相場急変時を除き公表相場を変更しない運用。 ・コストに Foreign Exchange margin を入れる場合、エマージング通貨等の高い流動性コストを 3%以内の収益でカバーできないことで、サービスを提供出来ず、顧客の利便性の低下に繋がる可能性がある。 |
| <p>7. What are your views on the speed targets across the three market segments? Are the proposed targets striking the right balance between the ambition of having a large majority of users seeing significant improvements, the recognition that different types of user will have different speed requirements, and the extent of improvements that can be envisaged from the actions planned under the roadmap?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ スピードの目標は、大変チャレンジングな内容と考える。 ✓ 多くの場合、送金のスピードと安全性は、相反関係にあると考える。即時に資金を受け取るニーズがある一方で、送金の即時化が進むことで、不正送金による被害を抑制するために、スピード面で妥協が必要なケースが生じる場合がある。特にリテールのセグメントにおいて、エンドユーザーの多くがスピードよりも、安全であることを優先して送金サービスを選択していると考えられる。大部分（75%）を一律に1時間以内とする目標は、適切なバランスとは言えないのではないかと。 ✓ スピードの目標は大部分の取引が「1時間以内に」となっているが、スピードを計測する際は、フィルタリングによる経済制裁対象者の該当有無のチェックプロセスに要する時間が取引によってばらつきがある点や、国によって規制内容が異なり、求められるコンプライアンスチェックが異なる点を考慮すべき。 ✓ 時差についての言及がないが、同じタイムゾーンでの目標とするか、または、地域毎の時差・営業時間を考慮すべき。なお、24時間化ありきで進むことはコスト増加に直結しコルレス銀行の減少に繋がるおそれがあることから避けるべきと考える。 ✓ 計測区間については、お客様からの送金申し込みをスタートとするのではなく、仕向銀行からの発電を起点として、被仕向銀行に着電するまでを終点に設定し、SWIFT gpi のデータを使用することが計測可能な方法であると考えられる。 ✓ スピードの目標達成には仕向側だけでなく、被仕向双方の努力が必要となる点もご留意頂きたい。 |
| <p>8. Are the dates proposed for achieving the targets (i.e. end-2027 for most targets) appropriately ambitious yet achievable given the overall time horizon for the Actions planned under the Roadmap? Would an alternative and more ambitious target date of end-2026 be feasible?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 2027年末の目標は十分に野心的な目標と考える。多くの金融機関は2025年11月のISO移行対応にコスト・リソースを割いており、また、各ロードマップで計画される行動が具現化し、効果が出るまでにタイムラグが生じることから、2026年末の代替的な目標の設定は、現時点では時期尚早ではないかと。 ✓ 各ビルディングブロック、特にフォーカスエリアBの進捗が目標達成時期に影響すると思われる。 ✓ 目標達成のために、モニタリングの進捗状況を公表する際、先進的な取組、他のリージョンでも参考となる取組等の事例を公表することも有益ではないかと。 |
| <p>9. What data sources exist (or would need to be developed) to monitor the progress against the targets over time and to develop and set key performance indicators? Do you have relevant data that you would be willing to share for this purpose either now or during the future monitoring?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ コルレス銀行間のSWIFTを使った外国送金は、SWIFTgpiで開発されたgpiTrackerにて、送金の取組みから着金迄の時間の計測が可能。但し、正確なトラッキングはgpi加盟行間のみ限定されており、gpiに加盟していない多くの中小金融機関が関与する送金は、時間単位でのデータ把握は困難。「within one hour」のデータを提供するためには、新たなデータソースの検討・開発が必要となるが、目標のモニタリングのために市場参加者に新たなコストがかかるようなことは回避すべき。 |
| <p>10. Do you have further suggestions or questions about the detailed definition and measurement of the targets and their implementation? Which types of averages can be constructed to help to measure progress?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 市場ボラティリティが高い時には、市場コストも急上昇するため、こういった相場が急変動する場合など、送金コスト制限に対する例外を設定する必要はないかと。 ✓ 目標達成を確実にするために、予定通りにビルディングブロックが実装されることが最も重要。各アクティビティにおける成果物を明確に定義したうえでそれを作製すること、加えてプログラムマネジメントのフレームワークが成功に不可欠。 ✓ 各課題は年々線形的に改善されることは想定可能なのだろうか。そうではない場合、どのような道筋で目標達成に至るのか。 ✓ 透明性について、為替マージン・手数料水準等は送金依頼人・受取人が双方に開示を求めない内容であり、開示内容・開示先についてマーケット慣行も加味した上で検討頂きたい。 |
| <p>11. Do you have any suggestions for more qualitative targets that could express ambitions for the benefits to be achieved by innovation that would be in addition to the proposed quantitative targets for the payments market as a whole?</p> | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 目標が達成できるかどうかはどれだけビルディングブロックが成功裏に実行できるかにかかっている。特にNo.5のAML/CFTルールの標準化はSTPを促進するうえで重要。この点は定性目標の一つになるのではないかと。 ✓ 国・地域ごとに異なる規制の調和、各国当局間の協調、官民の協調（public-private partnership）の進捗についても、定性的な目標設定が検討できるのではないかと。 |